

かながわ明日リポート ⑩

ボッチャ

2016年のリオデジャネイロパラリンピックで日本代表が銀メダルを獲得し、注目度を増した障害者スポーツのボッチャ。藤沢市在住の木村朱里選手は競技歴3年ながら日本屈指の選手に成長を遂げた注目株だ。

白い的球をめがけて赤青6球ずつを投げ合い、ボールがはじかれて戦局が一変するところから「陸上のカーリング」とも評されるボッチャ。老若男女が障害の有無に関わらず楽しめる競技で、近年は学校教育にも導入されている。

重度四肢障害のある選手が属する「BC4」というクラスで女性選手の最上位につけ、今年から日本ボッチャ協会の強化指定を受ける。「私のように重い障害があっても入りやすく、健常者と同じ土俵でプレーできるのも貴重。どんどん広まってほしい」。普及への願いは、自身の可能性を広げてくれた競技への感謝に基づいている。

幼少期に難病にかかり車いす生活に。以前から取り組んでいたパラセーリングは、一人で臨むには制約があり、体力的に厳しかった。17年に関係者に勧められたボッチャの研修会に参加してからは競技にのめり込み、アスリートとしての道が開けた。

藤沢市役所での勤務後には近隣の体育館などで練習を重ね、昨年は日本代表として国際大会に出場するまでに成長を遂げた。競技者として高みを目指す上で、栄養面の強化も必須だ。「炭水化物系を取るように指導を受けた。エネルギー源にしていきたい」と、JAグループ神奈川から贈られた県産米・はるみを使用したうどんを取り入れる。来年に延期された東京パラ五輪の出場、そして飛躍へ。「体力と気力のベースを上げ、選手全員の代表として責任を持って臨みたい」。来る舞台が待ち遠しい。

*今号は、オンラインによるリモートインタビューで記事をまとめました。

JAグループ神奈川は、神奈川のアスリートを応援しています。



木村朱里選手(36)
*藤沢市在住